

平成29年度 加納中学校 学校経営計画

学校の教育目標『自ら学び、豊かな心とたくましく生きる力を持つ生徒の育成』

学校経営ビジョン 「生命（いのち）を大切にできる学校」「楽しさを実感できる学校」を柱に、チーム加納中として、学校、生徒、保護者、地域の強み（よさ）を生かした教育活動を推進し、昨年度よりワンランク上を目指す。

【自己評価書】4段階評価：4 期待以上 3 ほぼ期待どおり 2 やや期待を下回る 1 改善を要する

【学校関係者評価書】

評価項目	評価指標	具体的数値目標	方策・手立て	自己評価 指標別総合	結果の考察・分析及び改善策	評価	学校関係者評価コメント	
知育 授業力を高め、 学力を向上させる。	授業の中に「しっかり教える」「じっくり考えさせる」「はっきり表現させる」場を位置づけ、各場面における効果的な手立てや方法を考えて実践する。	・生徒による学校生活アンケートで、毎日の授業は「わかる」「楽しい」が80%以上である。	・「わかる・できる」まで教える「個々の教師の授業に対する4つのチェックポイント」に基づいた授業の展開を、どの教科においてもおおむね統一して実施する。	3	アンケートによると、3・4段階が87%と目標を達成しているが、個別に支援の必要な生徒もいるため、生徒の質問に応じる機会を増やす必要があると考える。「4つのチェックポイントに基づいた授業」については、どの教科についても実施することができた。	3	・生徒の側に立って「分かる・できる」「楽しい」授業を構築するため「4つのチェックポイント」を設定して、全職員で授業改善に取り組んでいる点は、特段に評価できる。個人差に応じた授業の工夫・改善は、時間と手間を要するため、履修内容の進度に影響する。現状を直視して適格な分析と検討及び工夫・改善が求められる。 ・「中学生になると発言しなくなる」とよく言われるがそれは逃げ。発言するような発問、問題提起、教材提示、場づくりがされていないことが大きな原因。加納中の授業でも、生徒同士が意見を、考えを戦わせるそんな「練り合い」の授業を見ることはなかった。「生きる力」を育てる授業改善には先生たちの意識改革が大事。 ・個別に支援の必要な生徒等のために努力されている点が良いと思います。 ・参観日で授業風景を見ていると、質問をする生徒がいないですね。きちんと理解できているのかわかりませんが、見ていた私が「なぜそうなんですか」と質問したくなりました。たんたんとして進んでいるようでよかった。	
	視覚に訴える構造的な板書や、本時の学習内容を定着させる場の設定等、指導法の工夫改善を行う。	・生徒による学校生活アンケートで、毎日の授業は「わかる」「楽しい」が80%以上である。	・ICTの活用や学習課題の明確な提示など、工夫改善を行い、教科間における事前・事後研修を開く。全職員が1回以上の研究授業を行うなどの授業力向上のための場を設ける。	3	学校訪問や小中合同研修会で同じ教科の職員同士で意見交換や授業参観を実施した。事前研修を実施することはできなかったものの、事後研修を実施することで指導法の工夫改善につながる取組となった。全職員一人1授業を実施しているが、効果を上げるためにも参観者を増やす手立ても必要ではないかと考える。		3	・教師の授業力向上を図るため、小中連携による指導法の工夫・改善や一人1授業の実践など、全職員一丸となつての実践的研究は、とても評価できる。自習にせず、できるだけ多くの授業参観者を増やすことは容易なことではない。今後の工夫・改善を期待したい。 ・一人1研究授業は素晴らしい。授業を公開して指導を受ける、それが指導力の向上につながるはず。ただ問題は、誰が指導するかということ。管理職、研究主任が最もふさわしい。だから力量を高める自己研修が必要。
	学習規律の徹底を図るとともに、基本的な学習習慣を確立させる。	・生徒による学校生活アンケートで『「2分前着席」「1分前黙想」など学習ルールが守られている』が85%以上である。	・年度当初に学習指導集を開き、生徒に取組の説明を行う。 ・学習委員会の話し合いや呼びかけ等、生徒の自治的な活動を活性化させる。 ・毎日学年で宅習の点検を行う。	3	年度当初に学習指導集を開き取組の説明を行い全校生徒の共通理解を図った。また、アンケートによると、3・4段階が90%と目標を達成することができている。先生方・学習委員会による学習態度チェックを実施した成果ではないかと考える。教師側がゆとりをもって教室に向かうことでさらに効果が上がるのではないかとと思われる。		3	・授業における2分前着席や1分前黙想及び立腰指導など、毎時間の授業の積み重ねの成果がアンケート数値の結果から明確に証明できている。今後、更なる努力の積み重ねと成果を期待したい。 ・2分前着席が守られているのは、先生たちの努力の賜。そしてそれは、加納中の先生たちにゆとりのある証拠。事務処理等に追っかけ回されている学校ではこうはいかない。 ・良くできていると思います。
	諸検査等の結果を分析し、指導法の工夫改善に生かす。	・学力検査・意識調査の結果を分析し、個別指導や教育相談に生かす。	・NRTテスト、全国及びみやぎ学力調査、県国・県数・県英テストの結果分析を行い、レジュメに整理する。 ・整理したものを、授業や個別指導の中で、活用する。	3	NRTテスト・県国・県数・県英テスト・みやぎ学力テスト・全国学力テストについて、学年・教科において、研究部を中心に、結果の分析を行い、今後の対策についても話し合いを行った。次年度も分析の結果を保存していくことで、学力向上の傾向と対策を考える資料として活用していきたい。		3	・本校は一校一校による小中一貫教育・連携が図れる良さがある。実際に本地区では、小中合同の研修や研究授業及び授業研究会を行って研究成果を出している。特に、小学校を卒業して中学校への「中一ギャップ」というバリアをなくして、フリー化していけばよいか、生徒の学力の把握及び諸学力検査等を細やかに分析して、改善の方向を出していく必要があると思われる。 ・この種の学力テストの結果・分析等は加納小に情報提供されているのだろうか。小中連携を推進している両校であれば、自分の学校を卒業した生徒たちの状況を知りたいだろうし、知ることによって新たな対策を講じることもできると思われる。

評価項目	評価指標	具体的数値目標	方策・手立て	自己評価	結果の考察・分析及び改善策	評価	学校関係者評価コメント
				指標別			
德育	心の教育を推進し、生徒の規範意識の醸成を図る。	生徒の良さを認め伸ばす指導を行い、生徒の自己肯定感を高める。	・生徒による学校生活アンケートで『生徒一人一人のよさや可能性を伸ばす』が85%以上である。	・朝の会・帰りの会を使い、委員会活動を活性化し、スピーチ活動を行うと同時に賞賛の場を多く設ける。 ・生徒との対話、生活の記録を用いた心の交流、道徳の授業の充実、などを行う。	3	アンケートによると、3・4段階が84%と目標をほぼ達成しているが、そうではない1・2段階の生徒が62人いたことに注視したい。授業時も含めて、一人一人のよさを活かし個別に支援していくことや、あえて自己肯定感を高めあうようなエンカウンターエクササイズなどの機会を増やす必要があると考える。	・「生徒一人一人のよさや可能性を伸ばす」に関するアンケート結果から、生徒と保護者及び教師との認識において10数%の差異がみられる。この点についての具体的な改善策がしっかり講じられている点は評価できる。生徒一人一人のよさや可能性を認め、伸ばしていくことは、教育の根幹であり、教師の使命である。今後一層の工夫・改善を期待したい。 ・自己肯定感、「よい自己像」をもっていない生徒は成長しないと言われる。これは精神的にも学力的にも、この評価では「1」をつけるのは余程「2」をつけるのも勇気がいる。「よい自己像」をもていない生徒が62名。持たせるのは先生たち、そして親の力。 ・生徒の良いところを認めて伸ばしていると思えるのですが、そう思わない生徒がいるのはなぜでしょう。
		Q-U検査の結果を全職員で分析し、適切な指導・支援に生かす。	・分析結果で学校生活満足群の生徒の割合が60%以上、不満足群の生徒が10%未満である。	・学級の状況を分析し、指導と生徒の状況のマッチングを図り、具体的手立てを研修などを通して学ぶ。また、学年全体で共通理解を図り、共通実践をしていき、満足群が増え、不満足群が減っていく努力を行う。	3	Q-Uの結果によると学校生活満足群の生徒の割合が56%、不満足群の生徒が16%いた。(しかし、これは6月段階)客観的データを踏まえて夏季休業中にも研修を行い、指導と生徒の状況のマッチングを図る努力や学級づくりを行った。今年度は導入初年度であるので、来年度以降も継続して取り組んでいきたい。	・学級集団における孤立児、周辺児及び排斥児等を科学的な根拠に基づいて見出し分析して指導の改善を図っていくことは極めて重要であり、高く評価できる。今後とも継続的に取り組んで、多くの事例を分析して適格な判断と結果を出していってもらいたい。 ・親の目から見て「学校に行くのを楽しみにしていない」というのが35名(10%)いる。10人に1人は楽しいと思っていない。この原因を追究していかないと不登校等の問題行動に発展することが懸念される。 ・生徒による、学校、先生方に対する評価はとても高いです。
		SCやSSW等と連携し、いじめ、不登校等の解決に努める。	・生徒による学校生活アンケートで『先生は気軽に相談に応じている』が85%以上である。 ・不登校数の減少を図るとともに、新規不登校者を出さないようにする。	・教育相談の時間をしっかり設定する。 ・相談アンケートの回数を増やす。 ・SCやSSWとの相談会議を増やす。 ・生徒会いじめ対策委員会の取組の充実に努める。	3	アンケートによると、3・4段階は83%であり、相談には応じている状況はあると思える。また、保護者相談を行い、SCを初め専門機関とも連携を図るなど、いろいろな対策を講じているが、抜本的な改善に至らず、不登校者は減少していない。今後も粘り強く対応していきたい。	・不登校生徒の保護者を対象とした「元気の出る会」を行うことも実践の一例として大切ではないか。対象保護者の立場に立てば、毎日が大変苦痛を思われる。例えば、定期的に夜(19:00～)対象保護者に集まってもらい、実際に不登校生徒を経験された保護者を講師に招いて、その時の思いを語ってもらったり、専門の心理カウンセラーを講師に招いたりなどして、保護者のきつい立場に寄り添う会を設定して、少しでも元気を出してもらおう手立てを講じることも大事なことではないかと考える。具体的な対策を講じてもらいたい。 ・「先生が気軽に相談に応じていない」と思っている生徒が65名(17%)いる。ささいと思える小さな問題を一つ一つ解決してやるのが大きな問題を発生させないことにつながっている。「先生が気軽に相談に応じてくれる」100%目指してください。 ・不登校、引きこもりは頭が良い子になると聞きました。学校だけに任せず、主任児童委員として、私も動かなければと反省しました。生徒達の内いじめに対する取組は大変良いと思います。
		人権教育や道徳教育の充実を図り、心の教育に努める。	・生徒による学校生活アンケートで『マナーや校則などルールを守ることで身につけているか』『周りの友達に対して優しく接することを心がけているか』が85%以上である。	・生徒との対話、生活の記録を用いた心の交流、道徳の授業の充実、などを行う。 ・日常生活の中で言語環境を整え、思いやりのある学級集団作りを行う。	4	アンケートによると、3・4段階は97%という肯定的回答が得られた。学年を通して人権教育や道徳教育を工夫して行い、指導をすることで向上が図れていると思うが、一部生徒には実践が伴っていない場面も見受けられるので、粘り強く今後も指導していきたい。	・人権教育及び道徳教育の全体構想に基づいて、日常の充実した取組がなされている。その結果として、アンケートより、生徒の肯定的な回答が高いレベルにあるが、その要因について具体的な分析を行い、実証的研究として理論構築をして一般化し、校内全体の共通実践化が図れるように期待したい。今後より一層の工夫・改善と努力をお願いしたい。来年度より、新教育課程の先行実施が始まることも考慮して、道徳教育の「教科化」への先行的な取組も必要であると考える。 ・学校帰りの生徒たちの会話にとげとげしい内容を聞いたことは一度もない。温かいほのぼのとした内容にこちらもつい笑顔になる。そんな加納中の生徒たちの通学路沿いに住んでいることがうれしくなる。 ・生徒が多いということは、家庭環境や道徳的な意義の差が大きくなりがちですが、加納中学校では工夫しながらよく対応していただいていると思います。ありがとうございます。 ・学校では挨拶できても、学校の外でも自分から挨拶はできているとは思えません。ナマや校則はしっかり守れていると思います。

評価項目	評価指標	具体的数値目標	方策・手立て	自己評価	結果の考察・分析及び改善策	評価	学校関係者評価コメント
				指標別			
体育・食育・健康教育	健康に対する関心を高め、健康で安全な生活を送ろうとする実践力を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 体力向上プランを全職員で共有し、学校生活全体で体力向上を図る取組を推進する。(部活動、学校行事、立腰指導) 	<ul style="list-style-type: none"> 50m走、握力で県平均を上回る。 立腰指導徹底100%を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 体力テストの結果を部顧問に配布し、基礎体力向上に活用してもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> 立腰指導は徹底した。50m走、握力では女子2,3年生で県平均を上回った。50m走では3年男子以外で県平均を上回った。握力の向上が達成できず、授業以外にも一校一運動の中で取り組んでいきたい。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 本校の体力向上に係る課題として「上体おこし」や総合評価における男女の体力に差異がみられる。このことにポイントにおいて多面的・総合的な視点に立って分析し、校内外にわたり幅広く指導の方策を講じて取り組んでいることは、高く評価できる。特に立腰指導は、毎日の徹底した指導により、体力向上全般にわたって効果が上がっていると思われる。 学校で体力向上させるとするのは無理な話。ましてや体育の授業でというのは不可能。大切なのは運動することの意味の理解と運動することの意欲づけだと思う。その意味では家庭との連携と部活動との連動が大事。 大変良いと思います。
	朝食100%摂取、給食の残食ゼロを目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒による朝食アンケートで、朝食摂取100%を目指す。 給食の残食調査において、残食0を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 給食委員会、保体委員会の呼びかけを行う。また、夏休みなどに、生徒主体の「元気の出る朝ごはん」などのクッキングイベントを実施する。 給食委員会の取り組みで給食時間を早くし、食べる時間を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝食を毎日食べる、ほぼ毎日食べる生徒が93%いた。3年生の朝食を摂っていない(評価2・1)生徒が13%いることがわかった。残食調査では加納中学校は清武町内小中学校の中で特に少なく、よく食べている。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 食育指導は、人間が生きる上での根幹に係ることであり、生徒にとっては、日々の学校及び家庭・地域の諸活動の基となる重要な教育活動である。従って、朝食や給食をはじめ、食事の大切さを理解させる多面的・計画的・継続的な方策を講じて、全校生徒一人も落ちこぼすことなく、成果が上がるよう努めてもらいたい。 朝食を取っていない生徒が28名(7%)いる。これでは体力向上、学力向上は無理。保護者に対する指導、啓発活動をもっと強力に進めること。これは生徒の責任ではない。 大変良いと思います。 	
	弁当の日を実施し、食に対する関心と感謝の心を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 年2回の弁当の日を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年の家庭科の時間に、お弁当作りの授業を実施する。 弁当の日の食育指導を段階的に行い、実践項目のレベルアップを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 年2回の弁当の日は実施できた。中には、手の込んだ弁当を作っており、栄養のバランスをよく考えた弁当もあった。7つの到達項目を設けているが、全く〇のつかない生徒はほとんどいなかった。おべんとう作りの授業は年明けに実施予定である。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 技術・家庭科(家庭形列)における「弁当の日」を中心として、校内全体で、全職員一丸となって取り組まれており、評価できる。本年度も「弁当の日」に係るコンクールにおいて、全国大会に出場するなど、質の高い授業や日常指導ができています。 弁当の日設定は素晴らしい。生徒達一人で作ることは到底思えず、親と協力して作る姿を想像するだけでほのぼのとする。生徒だけでなく親も食の関心が高まるだろう。親が母親から父親になると凄い。 良いと思います。キャラ弁はなしにしてほしいです。 	
	学級担任と養護教諭が連携して健康教育に取り組む。(TT、資料活用)	<ul style="list-style-type: none"> 年1回の学級担任(T1)と養護教諭(T2)の性教育を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年に応じた資料を作成し、学級担任と連携して授業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年生はか母ちゃっ子クラブを利用して担任とTTで授業を実施した。 1,2年生については、資料を準備し、今後学活などで実施する予定である。 	2	<ul style="list-style-type: none"> 学級担任と専門家の講師によるTT指導を導入した実践的取組はとても評価できる。中学生は、思春期の重要な成長期であり、心身ともに大きな成長がみられる。従って、専門家による人間成長の根幹に関わる心身の健康指導は、大変効果的であると考えられる。 学校で一斉に行うことは指導の内容と時間の確保ができて素晴らしい。また専門機関の方の援助をもらうことは、生徒の意欲を高める上でも有効であり、素晴らしい。 性に関する授業は、思春期にはとても大切なことなので、年に1回ではなく2回、3回と行ってほしい。生命の尊さも教えてもらいたいです。 	

評価項目	評価指標	具体的数値目標	方策・手立て	自己評価	結果の考察・分析及び改善策	評価	学校関係者評価コメント
				指標別			
学校環境整備充実 家庭や地域と連携し、信頼される学校づくりを推進する。	授業等において地域人材の積極的な活用を図る。	・地域人材100%活用を目指す	・教科において活用可能な教材を精選し、地域の人材を活かした授業の充実を図る。	3	家庭科において、保育園実習や調理実習の中で実施できた。職場体験学習において地域の職場等を活用した。	3	<ul style="list-style-type: none"> アンケート結果より、学校及び学校外でのあいさつや安全・安心等に係る生徒と保護者及び教師の意識に差異がみられる。特に、教師の感じる専門的な意識を重視して、地域と連携を図りながら、地域の人材を活用して、授業の成果を上げていくことにより、生徒、保護者、教師、地域それぞれ質の向上につながる。 ある市では、教科指導（日々の授業）の中に、教師OBの支援をお願いしている。数学、英語、理科、家庭、体育等の活用もありでは。 地域の方も何らかの形で子どもたちに携わりたいと思っているので、得意分野で役立てて喜ばれていると思います。男性が携われることがあるとよいのですが。
	参観日やオープンスクールにおける保護者や地域の声を学校改善に生かす。	・参観率80%以上を目指し、意見を集約していく。	・保護者や地域への情報提供を確実にし、日程の確認と参加への呼びかけを行う。 ・アンケート用紙を作成し、終了前に記入してもらい、結果	2	参観率80%には届かなかったが、地域への発信や情報提供は行えた。毎回アンケートをとることができなかった。今後内容の検討を重ね、毎回とれるようにしていきたい。		<ul style="list-style-type: none"> 中学校においては、学校参観日における参観率80%を超える数値は大変厳しい数値目標であると考え。両親が共に働いている現代社会では、大変難しい状況にある。80%を超える目標を設置するためには、特段の手立てや工夫・改善が求められる。今後の取組の工夫を期待したい。 懇談率の学級間差が大きい。同学年で36%（10名）もの差があり驚く。担任はこのことどう考え、どう対処したのか。そして管理職は。 参観率が良い方だと思います。
	学校ホームページや学校便りを活用し、地域への情報発信を行う。	・保護者アンケートで、「ホームページを見る、学級通信・学校便りを読む」が90%以上。	・学校ホームページを定期的に更新し、学級通信を毎週、学年通信や学校便り、保健便りを毎月発行する。	3	アンケート結果では86%の保護者が通信を読んでいるのが分かる。学校便りと保健便りは毎月1回、学級通信はほとんどの学級で毎週1回発行し、学校の様子を保護者に知らせている。ホームページは行事ごとに更新するなど、情報を発信している。今後も継続して家庭地域との連携を図っていく		<ul style="list-style-type: none"> 学校経営全般にわたり、保護者や地域に情報を開示することは極めて大切なことである。適正な学校の教育情報を適格に整理して提供することは、学校評価にもつながり、高く評価できる。今後も一層の工夫・改善を図った取組を期待したい。 学校便りは回覧板で読ませてもらっている。生徒達の状況がよく分かり、また校長先生の考えておられることが伝わり、大事な地域への啓発書である。PTA新聞も楽しみにしている地域の人は多い。 回覧板に加納小、加納中便りが入るようになったので良いと思います。
	学校関係者評価を活用し、学校運営の改善に努める。	・学校関係者評価委員会を計画的に行い、評価委員の方々の意見を伺う機会を多くもつ。	・学校参観日や学校行事（体育大会等）の案内を出し、評価委員の方々が学校に来られやすいようにする。	3	学校関係者評価委員会を計画的に行えた。参観日や体育大会、文化発表会に参観されたときにいろいろ意見を伺うことができ、次年度の取組の参考になった。		<ul style="list-style-type: none"> 自校の自己点検・評価を校内外全般にわたって行う評価委員会の設置は必須ではないかと考える。評価項目や数値目標を前年度末に設定して、常時、評価委員が点検・評価を行い、教育指導の改善を図るポイントを探ることができる。学校関係者評価は、自校の点検・評価を得ることができる。案内状を出していただいたので学校に行きやすくなった。特に参観日や各種行事に対する学校の敷居が低くなって助かった。 学校行事に参加しやすかった。
	地域の関係諸機関と連携し、協力体制を構築する。（まちづくり協議会、青少年育成協議会、加納中協力者会）	・地域と一体となって学校づくりを行うため、会合や協議会等に積極的に参加する。 ・PTA奉仕活動への参加が90%以上。	・加納地区まちづくり協議会、青少年育成協議会、民生児童委員協議会、等との連携を深める。 ・PTA役員と連携して企画し、生徒・保護者、地域への参加啓発を促す。	3	地域との連携を推進し、行事にも積極的に参加した。地域から愛される加納中となっている反面、地域からの厳しい目もあるので、今後も地域と一体となって活動を連携していきたい。		<ul style="list-style-type: none"> 関係諸機関との連携を密にして、地域に根付いた学校として、地域ボランティアへの参加や職場体験活動など、多面にわたり積極的に取り組んでいる点を高く評価できる。地域から厳しい意見や指摘等に積極的に取り組んで適正な判断と説明責任が求められると考える。今後の前向きな姿勢を期待したい。 八重川の清掃活動に中学生が参加するなど、地域の活動に積極的な取組をしようとする学校の意図がみられうれしかった。参加した生徒達はゴミボイ捨てはしない大人になると思う。 加納中学校の生徒は、地域活動への参加率が高いと思います。これは各教職員の方々が参加する姿を見て、生徒会を中心に生徒会から考え行動しているからではないかと思えます。頼もしい加納中学生！！ 地区の行事に加納中の生徒が多く参加してくれています。八重川沿いのゴミ拾い、縄跳び、相撲大会、マラソン大会の手伝い。地域一体となってやっているのですね。